※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | 406 |
|---|---|

# 令和８年度　環境科学科

| 教科 | 環境科学 | 科目 | 生活の科学 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 901　「高等学校 科学と人間生活 改訂版」（新興出版社啓林館） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生活の科学では、自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを，見通しをもって行うことなど通して理解し，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に着けます。

## 2　学習の到達目標

【知識及び技能】
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解している。
【思考力、判断力、表現力等】
科学的な探究方法を身につけ、自身の考えを適切に他者に伝えるスキルを発展させる。
【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。 | 人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し，見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。 | 自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。<br>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知<br>(a) | 思<br>(b) | 主<br>(c) |
| 1学期 | 物質の科学 | 衣食にかかわるさまざまな物質<br>食品にかかわる物質<br>衣料にかかわる物質 | a: 食品や衣料を構成する物質の多くが高分子化合物であること理解し，天然高分子化合物と合成高分子化合物に分類することができる。（定期考査）<br>インターネットや文献などを活用して、調査やデータ収集方法を習得している。（課題提出）<br>b: 食品中の成分を検出する実験や，簡単な化学繊維の合成などの観察・実験の技能を習得し，その構造や成分の違いに関して考察することができる。(定期試験・発問評価・課題提出)<br>c: 身近な食品中の成分や，衣料材料の性質や用途を追求し，生命の維持と快適な生活にこれらの食品や繊維がどのように利用されているか関心を持ち，意欲的に学習しようとする。（発問評価・授業態度） | 小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。 | 授業内の発問、定期考査において資料の読み取りや考察を行い、自分の意見や考えを発表・表現できるか。 | ・授業に関する質問、発言<br>・ノート、プリントの記入内容(メモ書き等)<br>・提出物 |
| 2学期 | 生命の科学 | 私たちの生活環境と眼<br>ヒトの生命活動と健康の維持 | a: DNA における塩基の相補性を理解するとともに，DNA の塩基配列によってつくられるたんぱく質のアミノ酸配列が決まることを理解している。（定期考査）<br>眼の構造と働きについて理解しており，観察・実験の結果や考察を自分の言葉で表現することができる。（課題提出） | 小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。 | 授業内の発問、定期考査において資料の読み取りや考察を行い、自分の意見や考え | ・授業に関する質問、発言<br>・ノート、プリントの記入内容(メモ書き等)<br>・提出物 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ヒトの生命現象とDNA | b: 眼で受容した光の情報が脳で処理されることによって視覚が生じることについて，錯視の実験を通して説明することができる。また、血糖濃度やホルモンの分泌量の変化のグラフを読み取り，ホルモンによる血糖濃度の調節について考察することができる。（定期試験・発問評価・課題提出）<br>c: ヒトの生命現象と生活との関連に興味・関心をもち，意欲的に学習しようとしている。（発問評価・授業態度） | | を発表・表現できるか。 | |
| 3学期 | 宇宙や地球の科学 | 太陽系の天体と人間生活<br>潮汐と人間生活<br>太陽の放射エネルギー | a: ・太陽や月などの運行の周期性が，時や暦など人間生活と深く関わっていること，太陽の放射エネルギーが生命の星としての地球の環境に影響していることを理解している。（定期試験）<br>b: ・地球が生命の存在できる環境であることを，太陽系の広がりや構造，太陽の放射エネルギーなどから総合的に判断して考察し，表現することができる。（定期試験・発問評価・課題提出）<br>c: 太陽が地球に及ぼす影響や，太陽系の広がりと構造について関心を持ち，太陽系における地球について科学的な見方・考え方を身につけようとする。（発問評価・授業態度） | 小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。 | 授業内の発問、定期考査において資料の読み取りや考察を行い、自分の意見や考えを発表・表現できるか。 | ・授業に関する質問、発言<br>・ノート、プリントの記入内容（メモ書き等）<br>・提出物 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度